

香川県丸亀市、築330年余の日本庭園「中津万象園」にて
史上初となるサウンドアートの展覧会が開催

聴象発景 / evala (See by Your Ears) feat. 鈴木昭男
2019.9.27(金)-11.24(日)



舞台は香川県丸亀市にて、築330年余の歴史をもつ大名庭園「中津万象園」。
ここでテクノロジーを駆使する**先鋭的サウンドアーティスト evala**主導のもと、
サウンドアートの世界的パイオニア 鈴木昭男を迎え、まったく新しい「音の展覧会」が
出現します。

近隣では同時期に、瀬戸内国際芸術祭（9/28-11/24）、岡山芸術交流（9/27-11/24）が
開催される最中、**先鋭テクノロジー×サウンドアート×日本庭園**をテーマに、
歴史文化財を先端的サウンドアートの力で変容する史上初の試みとなります。

●開催概要

期間 2019.9.27(金) - 11.24(日) (予定) *水曜休館
会場 中津万象園・丸亀美術館
アクセス 香川県丸亀市中津町25-1 (JR丸亀駅よりタクシー5分)
参加作家 evala (See by Your Ears)、鈴木昭男
キュレトリアル・ディレクター 阿部一直
主催 中津万象園・丸亀美術館
企画制作 M&Iアート株式会社、一般社団法人Whole Universe
URL <http://www.bansyouen.com/> ※特設ページを開設予定です。
後援 瀬戸内国際芸術祭実行委員会 (予定)
丸亀市 (予定)

●見どころ



① 日本の自然観を「音」から呼び覚ます

1500余本の矮松、樹齢600年を越える大傘松、琵琶湖の近江八景を模した池をめぐる八景島など、広大な敷地に様々な“見立て”による人工自然や美観が内包された「中津万象園」。江戸時代以来の伝統的な文化遺産において、日本人の自然観と美学を、最先端テクノロジーを駆使した「音」による新たな空間表現から感じ取り、呼び覚ましていく実践的企画である。



② 先鋭的サウンドアート x 日本庭園

evalaは多数のスピーカーを庭園内の屋外や茶室などに配置し、コンピュータ・ジェネレートプログラムと独自の立体音響技術、AI技術などを用いて、これまでに体験したことのない**壮大な音響的創造空間**を立ち上げる。鈴木昭男は、庭の随所で音の景色に耳を澄ませ、来場者に発見を促す「点音(おとだて)」インスタレーションのほか、本舞台に合わせた**「音の見立て」の空間**を構築する。



③ 歴史文化財を更新、パブリックアートの先端事例を示す

伝統的な野外庭園を使うインスタレーションという前例のないアート企画。evalaは現存する最古の煎茶席（写真）を用いたサウンドインスタレーションを展開予定。ここでevalaの開発する音楽コンセプトおよび音響システムは、今後も自然公園や公共施設などにも応用可能であり、環境と現代アートの融合、文化財資源を活用した先端事例を提示するとともに、パブリックアートの新たなかたちを提案する。

④ アートエリア・瀬戸内周遊

香川県・丸亀市に位置する中津万象園は、瀬戸内国際芸術祭（高松駅からJR線快速電車利用・讃岐塩屋下車／約45分）、岡山芸術交流（岡山駅から特急電車利用・丸亀駅下車タクシー利用／約1時間）と、今年最も注目の集まる国際芸術祭との周遊に最適なスポット。

●アーティスト・プロフィール



evala (See by Your Ears)

1976年、京都生まれ、東京在住。音楽家、サウンドアーティスト。先鋭的な電子音楽作品を国内外で発表。立体音響システムを新たな楽器として駆使し、2016年より新たな聴覚体験を創出するプロジェクト「See by Your Ears」を始動。音が生き物のように躍動的にふるまう現象を構築し、新たな音楽手法としての“空間的作曲”を提示する。

代表作に「大きな耳を持ったキツネ」(Sonar+D, Barcelona 2017)「Our Muse」(ACC, Gwangju Korea 2018)のほか、ソニーの立体音響技術Sonic Surf VRを用いた576ch音響インスタレーション「Acoustic Vessel Odyssey」(SXSW, Austin 2018)を展開。また舞台、映画、公共空間などにおいて、先端テクノロジーを用いた多彩なサウンドプロデュースを手掛けている。

<http://evala.jp>



鈴木昭男

1941年平壤生まれ、京丹後市在住。1960年代より、常に「聴く」側にまわり、音と場の関わり方を模索する姿勢によって、音のイベントやパフォーマンス、インスタレーションなどを国内外で展開してきた。1963年、名古屋駅のホームの「階段に物を投げる」ことに始まる、空間への「なげかけ」と「たどり」を自修イベントとして行うなかから、1970年代には「アナラポス」などのエコー音器を創作し、身近な素材を使った数々のサウンド・イベントを実施。1976年には、南画廊（東京）にて初めての個展「音のオブジェと音具展」を開催。

その後、フェスティバル・ドートンヌ・パリ（フランス、1978）や、ドクメンタ8（ドイツ、1987）に参加するなど、国際的な場での活動も本格化していく。1990年代になってからは、「聴く」という行為を鈴木独自の思考や方法によって探求したコンセプチュアルなサウンド・インスタレーションを、世界各地の美術館、ギャラリーで展開し、精力的に発表を続けている。

●中津万象園／丸亀美術館 について



1688年、丸亀二代目藩主・京極高豊侯により築庭された回遊式の大名庭園。1500余本の矮松を植え、庭の中心には京極家先祖の地である近江の琵琶湖を形どり、「近江八景」になぞらえた八景池を置く。「万象園」の名は森羅万象、即ち宇宙に存在するすべてのものを意味し、それらを

合わせ持つ名園とい名高い。また、平家建数奇屋風に建築した「丸亀美術館」、湖畔には、庭の景観を楽しみながら食事のできるレストラン「懐風亭」も併設する。

<http://www.bansyouen.com>

〈広報・取材 お問合せ先〉

- ・企画、アーティストに関するお問い合わせ
M&I アート株式会社（担当：田中、岸田）TEL 03-5575-3870
- ・アクセス、会場等についてのお問い合わせ
公益財団法人中津万象園保勝会
西 敏朗（0877-85-8860）、槇野亨子（0877-23-6326）